

## 進級、入園にあたって

保護者の皆さま、進級、ご入園おめでとうございます。

自然界が、躍動するこの時に進級、ならびに新しい子ども達をお迎えすることができ、職員一同喜びに絶えません。

これから子ども達は、散歩や遠足を通して 園の中では 見られないような開放感を味わいます。

また、四季折々の昆虫や植物、小鳥たちとも出会っていきます。そのたびに子ども達は草花の小さな発見をうれしそうに報告しあったり、みせあったりするでしょう。葉っぱや木々についている小さな虫の抜けがらさえ、子どもたちにとっては大発見であり宝物です。

そして、友だちとぶつかったりもしますが、それを乗り越えたとき、本当の自分への信頼、友だちへの共感がはぐくまれ、その力や喜びが、次に「もっとこんなことをしたい」「こんな自分になりたくない」と新しいことに挑戦していくエネルギーになっていくことでしょう。

自然の営みに触れて実学することで知力、体力、精神力、感受性がやしなわれます。自然とともに生きていく暮らしを体験することは、人間養成にとってきわめて重要ことです。

子どもの心のさけび、願いに向き合い、子ども達の小さな心の動きを拾い集めながら、保育を実践してまいります。

また、どんなに「だだこね」をしても辛抱強く受け止め、身体が「心地よさ」を感じるまでつきあっていきます。

こんな体験を積み重ねた子ども達は、自分の思いを受け止められる喜び、聞き取られる喜びをベースに今度は相手の言葉を聞く姿勢を自分のものにしていくことでしょう。

子どもがいちばんほしいのは、あたたかさやさしさと信じてもらえる安心感です。

心の豊かな子どもに成長するためには、大人から豊かなことば豊かな心をいっぱいもらうことが大切なのです。

すべてを包み込んでくれる人、ゆっくとやさしく流れる時間、あたたかい陽だまりのある場所。そこが心の帰るところです。

親たちの声が職員集団に届き、保育者も願いを伝えあって保育をつくっていく営みが、保育園のあるべき姿だと思います。

しかし、一方的な伝達からは、つながり合う関係、響き合う関係は生まれません。対話を通じて、コミュニケーションを深め、その中で親がどんな考えを持っているかを知り、信頼して謙虚に接することで、対話的關係が深まります。その中でこそお互いに成長できます。もちろん、子どもとの関係においても同じです。

保育者が、親や子どもを信頼し、コミュニケーションを深めることで、親や子どもとはじめてつながり、響き合うことができるのだと思います。

今後ともよろしく願いいたします。